

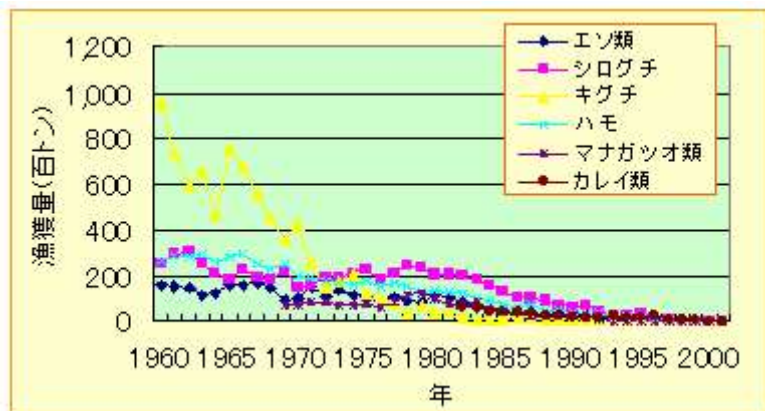
キグチ		<i>Larimichthys polyactis</i>
シログチ		<i>Pennahia argentata</i>
ハモ		<i>Muraenesox cinereus</i>
マナガツオ類	マナガツオ	<i>Pampus punctatissimus</i>
	コウライマナガツオ	<i>Pampus echinogaster</i>
エソ類	ワニエソ	<i>Saurida wanieso</i>
	トカゲエソ	<i>Saurida elongata</i>
	マエソ	<i>Saurida</i> sp.2 等
	クロエソ	<i>Saurida</i> sp.1
カレイ類	ムシガレイ	<i>Eopsetta grigorjewi</i>
	メイタガレイ	<i>Pleuronichthys cornutus</i>
	ナガレメイタガレイ	<i>Pleuronichthys</i> sp.



漁業の特徴

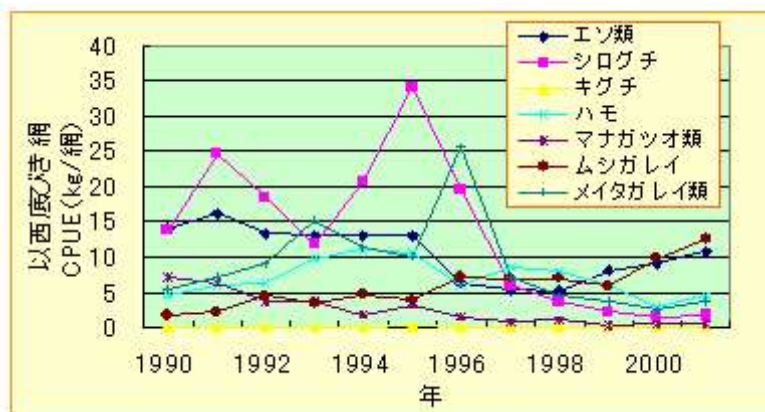
東シナ海には多様な底魚類が棲息し、以西底びき網漁業によって漁獲されている。以西底びき網の主な対象魚種は、キダイ、ケンサキイカ、イボダイ、ヨロイイタチウオ等である。本報告では東シナ海に分布するキグチ、シログチ、ハモ、エソ類、マナガツオ類、カレイ類の資源状態について報告する（キダイ、ケンサキイカについてはそれぞれ

の資源評価報告書を参照)。



漁獲の動向

以西底びき網漁業による漁獲量は、1960年代の30万トン以上から1960年代後半に減少し、1970年代は20万トン程度で網数も安定していたが、1980・90年代には減少が続く、2001年には9千トン未満を漁獲するのみとなっている。漁場もかつては東シナ海・黄海の広域に及んでいたが、現在では我が国EEZ内を中心としている。主要対象種も大きく変化し、現在ではケンサキイカ等のイカ類が大きな割合を占め、グチ類やハモ、エソ類の占める割合は小さくなっている。本報告の対象魚種の漁獲量は減少が著しい。中国は、キグチ、マナガツオとハモを多獲しており、1990年代に漁獲量は増加を続けた。シログチ、エソ類、カレイ類についてもかなりの漁獲量があると考えられる。韓国もキグチとシログチを1万トン以上漁獲しているほか、マナガツオ類、カレイ類も利用している。



資源評価法

東シナ海の陸棚縁辺部で着底トロール網を使った漁獲試験を行って現存量を調査するとともに、以西底びき網漁業の漁獲統計を解析し、2001年の操業漁区と同一漁区におけるCPUE (kg/網) から資源の変動傾向を検討した。

資源状態

ムシガレイのCPUEは比較的安定しており若干増加傾向を示しているが、他のすべての資源では低い水準にあり、エソ類を除いておおむね減少か横ばい傾向にある。近年のCPUEの変動傾向は、我が国EEZ内における資源量の変動傾向をある程度表していると考えられる。キグチ等本報告で対象とする資源の大部分が、産卵場を含む主分布域が我が国EEZ外に存在する種である。我が国の漁獲努力が著しく減少している一方、中国と韓国はこれら資源を大量に漁獲しており、近年の資源減少は外国の漁獲による影響が大きいと推察される。

キグチ	低	不明
シログチ	低	減少
ハモ	低	減少
マナガツオ類	低	減少
エソ類	低	増加
カレイ類	低	横ばい

管理方策

以西底びき網漁業の現状の漁獲努力が、本報告の対象資源に与える影響はあまり大きくはないと考えられるので、資源の増減傾向に合わせて漁獲することを資源管理目標とするのが妥当である。現状の漁獲努力の水準で漁獲を続けることで、多くの魚種について目標達成が可能であると考えられる。対象資源を管理するためには、関係各国の協力による、東シナ海全体における資源管理が必要である。以西底びき網のCPUEの変動傾向と2001年の漁獲量からABCを算定した。

ABC（トン）

	キグチ	シログチ	ハモ	マナガツオ 類	エソ類	カレイ類
A B C limit	-	13	45	4	246	282
A B C target	-	11	36	3	196	226

資源評価のまとめ

- すべての資源が低位水準で、資源状態は良くない
- 東シナ海全体における漁獲圧は過剰である

管理方策のまとめ

- 問題の根本的解決には東シナ海全域での関係国間の協力が不可欠
- 我が国漁業の現状の努力量が対象資源に与える影響はあまり大きくないと考えられる
- 我が国漁業について、現状の漁獲努力で漁獲を継続する